



笹原中学校

伊丹市立笹原中学校 学校通信
第 1 1 号 平 3 0 年 9 月 7 日
編集責任者 校長 菰口 太志

「全国学力・学習状況調査」等の結果 ～結果にもとづく分析・改善を！～

3年生を対象に、4月17日（火）に実施されました「全国学力・学習状況調査」のうち、「学力調査」（国語・数学・理科の3教科）の結果概要をお知らせします。

3年生には、各学級で個票を配布しています。設問ごとの正解・不正解、問題の内容等が詳しく記載されていますので、点数のみに振り回されることなく、どこでどうつまづいたかなどをしっかりと振り返り、見直してください。

また、本校の職員で夏季休業中に結果を分析し、各教科での課題とその改善策について話し合いました。これからの、授業改善に活かし、生徒の学力向上に努めます。

各ご家庭でも、家庭学習について子どもたちへの働きかけをお願いいたします。学校と家庭の共通理解のもと、協力して笹原中学校の生徒の学力向上に取り組みましょう。

全国学力調査（国語・数学・理科）とはどんな調査でしょうか？

国語、数学は、A問題とB問題の2種類の調査があります。

A：主として知識に関する問題 →国語では基本的な読解や漢字、語句の意味など
数学では計算や数量関係、図形の性質など

B：主として活用に関する問題 →国語では自分の考えをまとめる記述式問題など
数学では実生活の場面で活用する力をみる問題など

理科は、知識に関する問題と活用に関する問題を一体的に出題しています。

※但し、この調査で測れる学力は特定の一部であって、学力の全てを表すものではありません。

今年度の全国学力調査（国語・数学・理科）の平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
笹原中学校	81	65	74	56	74
兵庫県	77	61	69	48	67
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

◎3教科とも、全国平均、兵庫県平均を上回っています。3年間の「落ち着いた授業態度」「規律ある生活態度」「習熟度別学習」「笹トレ」などの取組の効果が出ていると思います。

今年度の全国学力調査（国語・数学・理科）の結果分析概要

【国語A】

正答率が低かった設問は、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」34.0%、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」15.3%、「行書の基礎的な書き方を理解して書く」48.6%などでした。慣用句が正確に覚えられていなかったり、書写の時間が少なかったことが原因と思われます。

【国語B】

正答率が低かった設問は、「文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える」53.5%、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く（記述式）」13.9%、「相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く（記述式）」55.6%でした。情報処理能力、情報活用能力が不十分と思われるので、授業や家庭学習において、毎時間の振り返りを文章で書くことが必要です。自分の考えをまとめ、論理的に文章を書く力が求められています。

【数学A】

正答率が低かった設問は、「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している」33.3%、「一次関数の意味を理解している」37.5%、「証明の必要性と意味を理解している」39.6%、「数量の大小関係を不等式に表すことができる」54.2%などでした。関数や割合、図形、不等式などの領域が苦手なようです。また、証明や確率の意味や必要性が理解できていませんでした。

【数学B】

正答率が低かった設問は、「計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる（記述式）」16.7%、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる（記述式）」18.8%、「事象が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる（記述式）」46.5%でした。問われていることが読み取れていないこと、文字式や関数が表す意味を言葉で説明できないことなど、情報処理能力、情報活用能力が不十分と思われるので、国語と同様に、授業や家庭学習において、毎時間の振り返りを文章で書くことが必要です。また、授業においても、単なる計算にとどまることなく、実生活とのつながりを意識した授業の進め方を実践します。

【理科】

正答率が低かった設問は、「植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる（記述式）」26.4%（無回答10.4%）、「風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる」41.7%、「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる（記述式）」56.9%、「炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる（記述式）」57.6%などでした。設問や条件（表やグラフ）を読み取る力、論理的思考力が不足しており、記述式問題で不正解や無回答率が高いです。成果としては、2年生3学期より実施した「単元ごとに自分で内容をまとめる」という週末課題が、学習内容を思い出し、思考を整理することにつながっているとと言えます。

このような結果を受けて、以下のような改善に全教科で取り組みます！

【平成30年度学力向上の具体策】

- ① 学力調査の分析に基づく学習指導の実施とねらいを明確にし、振り返りを行う学習活動の徹底（流れのパターン化と振り返りの徹底）
- ② チーム学習や教え合い学習など指導形態の工夫（話し合いの手法の統一）、笹トレの手法を各教科でフル活用
- ③ ノート指導の徹底と板書・発問の工夫
- ④ ICTの活用推進と設備の充実
- ⑤ 授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進
- ⑥ 学習規律の徹底（チャイム席・私語ゼロ・忘れ物ゼロの再徹底、正しい姿勢の再徹底）
- ⑦ 3年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑧ 2年生数学・2年生英語での同室内複数指導の実施
- ⑨ 数学の全学年教え合い学習「笹トレ」（月曜7校時）による学力定着
- ⑩ 放課後学習（水曜）全学年数学・英語の実施による学力補充
- ⑪ 土曜学習の充実（9月から月2回実施）
- ⑫ 家庭学習（サクセスシート）の習慣化（毎日・週末）
- ⑬ 英検等の検定取得の推奨
- ⑭ 学校図書館の活用と読書量の増加
- ⑮ 笹手帳の活用による生活習慣（朝食・学習等）の改善